２０２２年度第１回教育課程編成委員会　議事録

日　時：　２０２２年7月６日（水）　１４：００～１５：２０
場　所：　愛仁会看護助産専門学校　2階会議室
出席者：　公益社団法人大阪府看護協会　前会長　高橋　弘枝
Office Kyo-shien　代表　池西　静江
社会医療法人愛仁会　尼崎だいもつ病院　院長　松森　良信（Zoom にて）
社会医療法人愛仁会　愛仁会本部　看護担当特任理事　増山　路子
社会医療法人愛仁会　愛仁会本部　看護部長　西原　伸美
愛仁会看護助産専門学校　学校長　　清水　富男
愛仁会看護助産専門学校　副学校長　木村　幸子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事　増本　綾子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事　小林　理絵
愛仁会看護助産専門学校　助産学科　教育主事　大石　有香
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　実習調整者　長澤　亜由美
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者　長嶺　洋子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者　西山　玲子
愛仁会看護助産専門学校　事務部長　澤﨑　隆志
愛仁会看護助産専門学校　事務　　川口　璃子（書記）

議事次第
１．学校長挨拶
２．教育課程編成委員会の設置趣旨説明
３．教育課程編成委員会規程について
４．第１回テーマ「もう一度　特別教育活動を振り返ろう　課題研究編」
１）２）副学校長からテーマに関するカリキュラムの現状説明がなされた。
①　教育理念・目的目標・期待される卒業生像への到達に向けた特別教育活動の重要性
②　退学者・早期離職・休職者状況
③　教員評価による学生の社会人基礎能力状況
④　学校行事および特別教育活動（新カリキュラムおよび旧カリキュラム）
⑤　エンパワメント演習について

３）主な意見交換
・　特別教育活動を見直す方向性はわかるが、特別教育活動とは、正課科目外として学生を育てるのに必要だと学校が設定するカリキュラムであり、学校行事等意図をもったものを位置づけるべきである。
・　特別教育活動には本来狙いがあり、組み立てられるものである。縦割り活動で学生がお互いに教え合い、自分から働きかけるきっかけにつながるのが、特別教育活動そのものであると考えるので特別教育活動の意図を明確にし、共通認識して整理していければ良い。
・　学校だけで学生は育つわけではなく、学校での学びが臨床につながっていく。臨床現場とどのように関わり、臨床指導者にどのような知識を持って関わってもらい、どのように学生をともに育てていく

のかを考えなければならない。臨床にとって、学生を育てることは将来の後輩育成の指導につながる。学校と臨床の連携を密にし、どのように学生を育て、臨床に着地させてあげるかが大切である。

- 愛仁会の学生の強みは何か。学生の弱みだけではなく、強みに注目しさらに伸ばすことで自己肯定感につながるので、臨床現場と共に学生の気づきやケア等良い点を見つけていければ良い。
- 学校だけでなく法人全体で臨床と連携して学生を育てていく必要性を再認識した。毎月、臨床指導者会議を開催しているが、実習内容がメインとなっており、学生の自己肯定感等の指導についても共有していけたら良い。
- 新人の離職については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと感じている。困ったときの横のつながり（同級生）、臨床現場では先輩等との関わりが取りにくい状況になっている。学校教育だけで防ぐことは難しく、法人全体で考えていかなければならない。法人内の学生は患者に対する態度等、看護師になる能力が高いと感じる。入職後のラダーもあり、それも活用していければ良い。
- 学生を引き受ける臨床現場が大切である。施設・部署によって 1 年目 2 年目の役割が異なっていたり、離職者がいる部署は新人本来の役割を果たせていない傾向があるということがわかり、法人看護部でプロジェクトを立ち上げた。臨床のみの教育ではなく、学生を理解している教員にも介入してもらい、意見を聴取している。現在、実習指導者講習会修了者がすぐに学校へインターンシップとして参加しており、現場の理解につながれば良い。臨床と教員が協力し合い、情報共有することが大切である。
- 愛仁会は学校から臨床（急性期から特養・慢性期等）等広範囲で活躍することができる。入職予定者と 1 年未満の看護師との交流を行うなどの取り組みを行っている。カリキュラムマップにて科目との関連性が見えるが、特別教育活動の中に学年の観点（入学式：看護師になる決意～卒業式：帰属意識の再確認）があり、1～3 年次ごとの達成レベルとディプロマポリシーとの整合性が共通認識できるレベルで良いのではないか。能力に向けた考え方のみ意思統一しておくと良い。その結果を、実習指導者会議にてこの能力を補うためにこのような特別教育活動を行っているなど、発信し共有しあってもらえれば良い。今回のテーマは縦割り活動にてどのように学生は育つのかを意図したものと感じた。
- カリキュラムマップ内でどのような能力を育てたいのか、1～3 年次のイメージを教員同士で共有しながら学生を育てていかなければならない。
- 臨地との調整の際に、「看護」だけではなく、特別教育活動に求められる能力等の内容を伝えたり、教員と臨地が目指す方向性が一致すれば、期待に沿った関わりができるのではないか。
- 以前の特別教育活動の学年目標は、担当教員・行事ごとに変わり、つながりが無い傾向があったと感じる。特別教育活動とカリキュラムがどのようにつながっているのかがわかるように、学生の主体性を意識した指導をできたら良い。実習指導者講習会修了者がすぐに学校へインターンシップとして参加してもらうことで、臨地と学内で学生が学ぶ姿勢の違いや、教員の思う学びと学生の学びの違い等知ってもらう機会となった。今後も、臨地の方が参加してもらえるプログラムがあれば良い。
- 特別教育活動の狙いがディプロマポリシーと関連していない部分があるのではないかと気づいた。学生のどこを伸ばしていきたいのかを考え、同じ方向を向いて教育していければ良い。
- 何をどの時点で、どの力をつけていけるのか教員で共通認識しながら学生に伝えていかなければならない。
- 助産学科では、看護学科で 2 年間臨地に行けていない学生を現在実習に行かせており、大変さを痛感している。学内実習で補えるものではなく、指導者との連携等、臨地実習の現場ならではの学びが大切であると感じている。
- 京都橘看護大学では、年間 4 回現場に出た卒業生を、学校が継続的に教育している。愛仁会では、臨

床・学校にて新しい支援の活動がある。離職は学校の責任だけではないので、支援という形で病院とどのように連携を行っていくかが大切である。

- カリキュラムマップに現れない、カリキュラムの重要性が表れているのが特別教育活動だと思うので、もう一度見直してもらえれば良い。
- 特別教育活動にのみ焦点を当てるのではなく、臨床との関係性や、日々の指導方法等含め整えていかなければならない。教員との意見交換を含めて、次回に報告したい。

５．各委員より総評

- 特別教育活動を振り返ることで教育に真摯に向き合っていると感じられる。学生に自然体で伝えることが大切であり、リスクも柔軟に対応していければ良い。
- 特別教育活動に注目しているのが良い。教員が普段の教育の中で学生に意図を伝えていってもらえれば良い。
- 問題解決能力を色々なところから養っていくことが大切であり、その部分を養う特別教育活動になれば良い。
- 愛仁会ならではの強みを見つけていけたら良い。
- 学校と臨床現場の連携を大切にしていけたら良い。

次回会議予定

日時　　2022 年 12 月第 2 週・第 3 週（水曜日）14 時～16 時

場所　　愛仁会看護助産専門学校　会議室

テーマ　　第 2 回テーマ「もう一度　特別教育活動を振り返ろう　実践評価編」

以上